磐梯山の生い立ち

磐梯山は当初、溶岩層と火山灰層でできた均整のとれた成層火山でした。2500年前の火山活動によって山頂が山体崩壊し、幅 1.2 キロ、深さ 350 メートルの沼ノ平のカルデラが形成されました。山体崩壊前の磐梯山には標高 1,430m～1,816m の大磐梯、楡ヶ峰、赤埴山、小磐梯という 4 つの峰がありました。

1888 年の水蒸気爆発によって小磐梯のかつての山頂が破壊されました。爆発によって磐梯山の峰は 3 つになり、壊滅的な岩なだれを引き起こし、地域一帯に岩屑が流れ込みました。現在は非活火山になった小磐梯を訪れるハイカーは、崩壊跡や、岩なだれが川をせき止めて形成した多くの湖沼（約 300）が点在する周辺地域を眺めることができます。

将来の噴火を予測し、それに備えるために磐梯山の火山活動は注意深く監視されています。